

・ ペット産業の市場規模

．ペット産業の市場規模

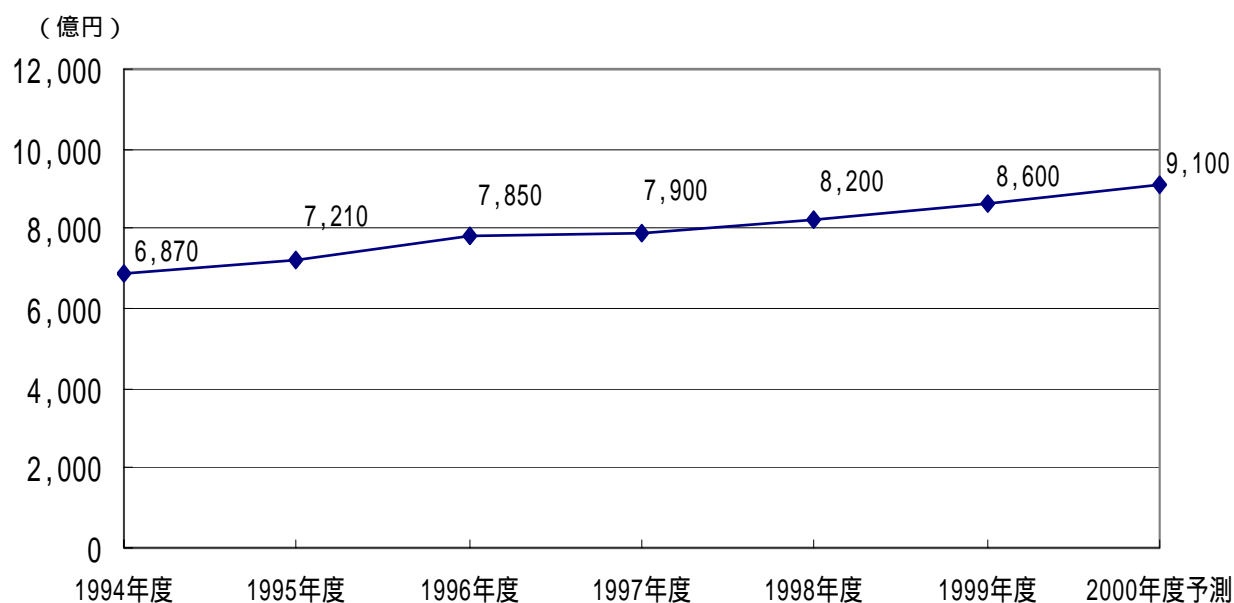
1．ペット産業の市場規模

小売ベースのペット関連総市場規模は、97年度に成長がいったん鈍化したが、98年度以降成長率を伸ばし続けている。直近のペット関連総市場規模をみると、99年度実績は8,600億円（対前年度比+4.9%）、2000年度予測は9,100億円（対前年度比+5.8%）となっている（図表1）。

当該市場全体の伸びは、ペット関連サービスと生体の伸びによるものが大きい。ペットフードやペット用品も僅かながら成長しているものの、価格下落の影響が大きいことなどから伸びは鈍化傾向にある。2000年度の当該市場規模は、予測では9,000億円に到達したと考えられているが、市場成長の貢献度が最も高いのはペット関連サービス（特に犬や猫のカット、シャンプー）とみられている。

なお、ここでいうペット関連総市場の構成要素は、ペットフード、ペット用品、生体、ペット関連サービス（トリミング、ペットホテル、ペットの調教・訓練、ペット関連の専門学校等）である。

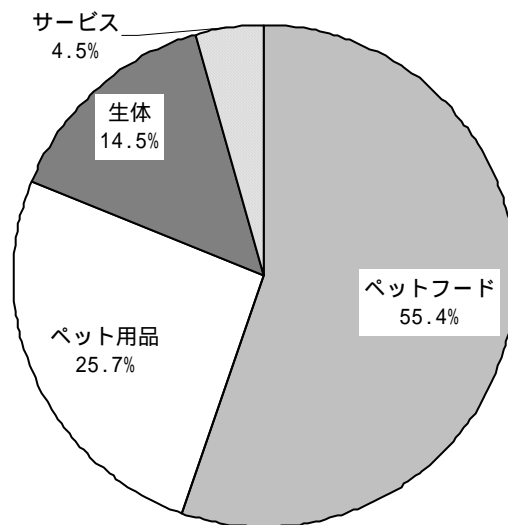
図表1．ペット関連総市場規模推移（小売ベース）



< 出所：矢野経済研究所 >

図表2では、エコトレーディング社の推計によるペット関連総市場の構成比を示した。ペットフード（55.4%）とペット用品（25.7%）で全体の8割強を占める。なお、生体は14.5%となっている。

図表2 . ペット関連総市場の構成比（小売ベース、2000年度）

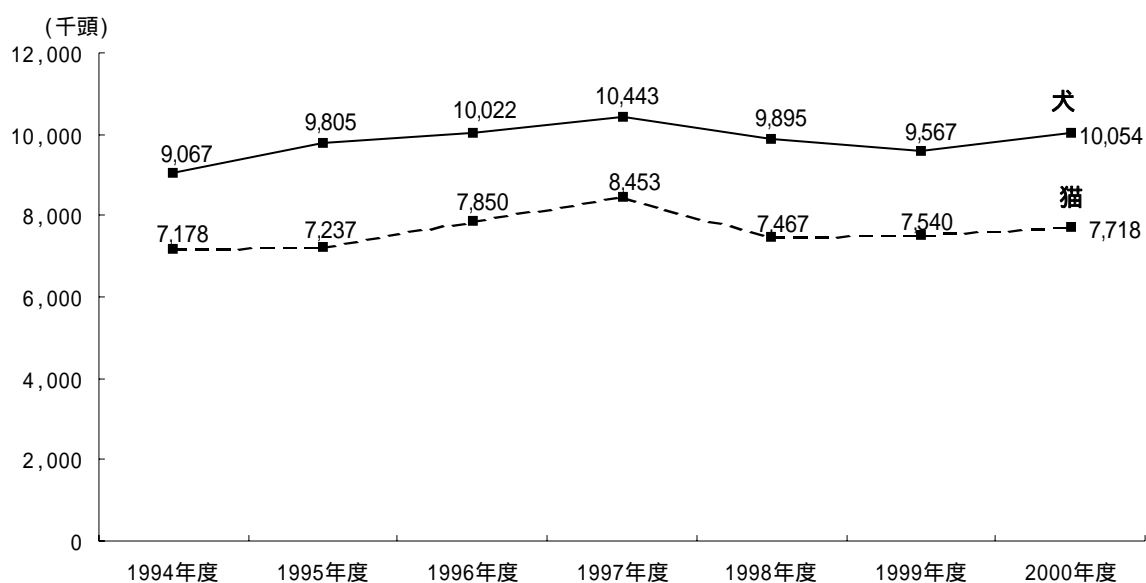


<エコトレーディング社推計より作成>

2. 犬・猫（生体）の流通状況

ペットフード工業会が調査・集計した『犬猫飼育頭数調査』によると、2000年度の全国における犬の飼育頭数は1,005万4千頭（1999年度は956万7千頭）、猫は771万8千頭（同754万頭）となり、飼育率は犬が18.1%（1999年度は17.7%）で約5世帯に1世帯が、猫が11.6%（同11.9%）で約6世帯に1世帯が飼育していると推測される。2000年度の飼育頭数は、対前年度比で犬・猫ともに約5%の伸びを示している（図表3）。

図表3. 犬猫飼育頭数推移グラフ（1994年度～2000年度）

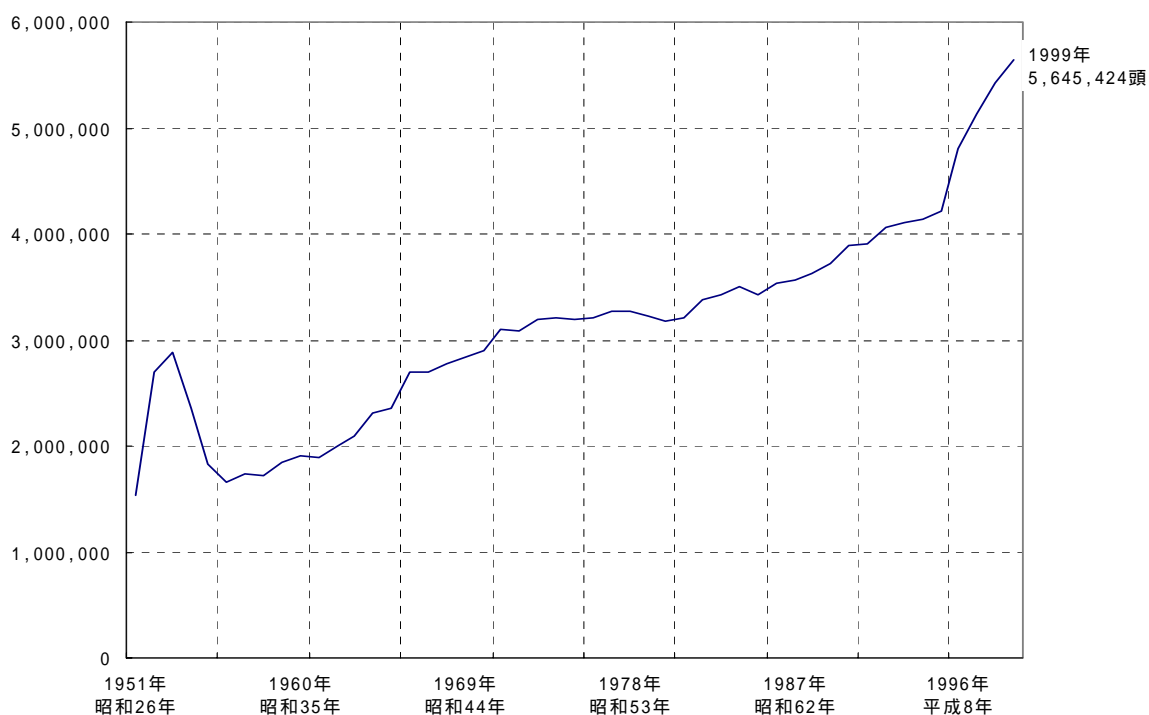


（注） 猫 = 内猫+外猫

< 出所：ペットフード工業会 >

厚生労働省の『衛生行政報告』によると、狂犬病予防法に基づく全国畜犬登録頭数は1999年時点で約565万頭であった(図表4)。一方、前ページの図表3で示したように、実際に飼育されていると思われる犬の数は1999年度(平成11年度)で956万7千頭となっていることから、飼育されている犬の4割強(約392万頭)は未登録と推定される。

図表4 . 全国畜犬登録頭数推移グラフ(1951~1999年)



(単位：頭、データ：厚生労働省『衛生行政報告』)

『ペット産業年鑑』（野生社）によると、2001年8月時点の全国の犬・猫取扱業者数（繁殖・小売・卸売）は、7,249件（内訳は、繁殖：1,307件、小売：5,521件、卸売：421件）となっている（図表5）。

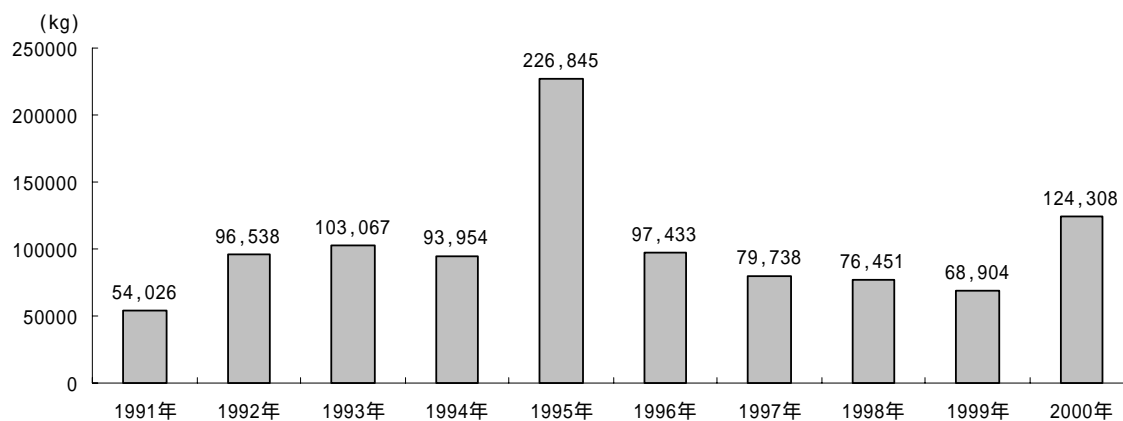
図表5．全国の犬・猫取扱業者数（繁殖・小売・卸売、2001年8月10日時点、数字は延べ数）

都道府県	繁殖 犬・猫	小売 犬・猫（生体）	卸売 犬・猫（生体）
北海道	58	246	16
青森県	12	49	7
岩手県	9	41	4
宮城県	26	90	5
秋田県	11	44	3
山形県	10	42	6
福島県	18	73	9
東北合計	144	585	50
茨城県	36	123	5
栃木県	31	88	13
群馬県	37	108	18
埼玉県	64	305	25
千葉県	72	243	16
東京都	53	507	41
神奈川県	74	374	18
山梨県	18	39	0
関東合計	385	1,787	136
長野県	33	87	9
新潟県	9	67	7
富山県	7	39	2
石川県	18	51	3
福井県	5	23	2
岐阜県	36	94	4
静岡県	44	208	14
愛知県	106	325	37
三重県	26	88	7
中部合計	284	982	85
滋賀県	12	44	0
京都府	30	128	9
大阪府	67	439	22
兵庫県	50	243	9
奈良県	11	60	2
和歌山県	15	67	1
近畿合計	185	981	43
鳥取県	2	17	1
島根県	6	23	2
岡山県	40	100	12
広島県	33	157	14
山口県	14	72	5
徳島県	6	30	2
香川県	14	60	6
愛媛県	17	69	2
高知県	8	29	5
中国四国合計	140	557	49
福岡県	56	281	23
佐賀県	11	32	5
長崎県	14	49	5
熊本県	26	61	8
大分県	8	44	1
宮崎県	18	53	7
鹿児島県	19	52	3
沖縄県	17	57	6
九州合計	169	629	58
全国合計	1,307	5,521	421

< 出所：野生社『ペット産業年鑑』 >

財務省の『貿易統計』により、犬の輸入数量合計（kg 単位）の推移をみると、2000 年は 124,308 kg となり、対前年比で約 8 割の伸びとなった（1999 年は 68,904 kg）。なお、2000 年の輸入数量は、1995 年（226,845 kg）以来の多い水準である（図表 6）。

図表 6 . 犬の輸入数量推移（1991 年～2000 年）



< 出所：財務省『貿易統計』 >

また、2000年の犬の輸入数量(kg単位)を相手国別にみると最も多いのは、米国の86.4%であり、2位以下を大きく引き離している(図表7)。

図表7. 犬の輸入量(相手国別、2000年)

数量：kg、価格：千円、単価(1kg当たり)：千円

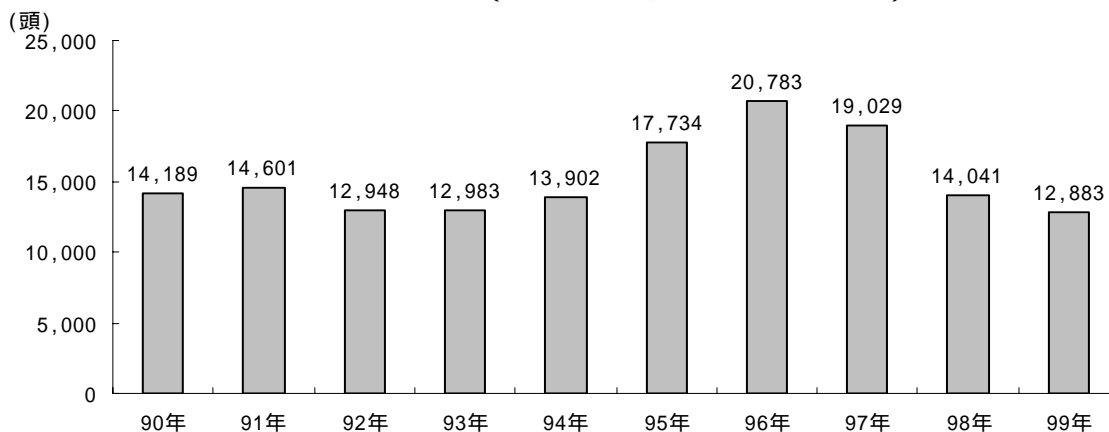
2000/H.12							
	頭数	シェア	数量	シェア	価格	シェア	単価
米国	10,808	91.42%	107,371	86.37%	846,763	84.04%	7.89
ドイツ	312	2.64%	8,857	7.13%	80,994	8.04%	9.14
中国	241	2.04%	2,416	1.94%	11,234	1.12%	4.65
オランダ	228	1.93%	2,280	1.83%	23,749	2.36%	10.42
英国	127	1.07%	1,430	1.15%	25,131	2.49%	17.57
スペイン	11	0.09%	352	0.28%	2,728	0.27%	7.75
カナダ	11	0.09%	261	0.21%	3,485	0.35%	13.35
アイルランド	20	0.17%	218	0.18%	2,064	0.20%	9.47
フランス	7	0.06%	172	0.14%	2,411	0.24%	14.02
オーストラリア	11	0.09%	168	0.14%	1,038	0.10%	6.18
ベルギー	5	0.04%	136	0.11%	1,211	0.12%	8.90
ソロモン諸島	3	0.03%	102	0.08%	227	0.02%	2.23
メキシコ	12	0.10%	96	0.08%	1,639	0.16%	17.07
デンマーク	10	0.08%	94	0.08%	1,329	0.13%	14.14
インドネシア	1	0.01%	90	0.07%	231	0.02%	2.57
韓国	3	0.03%	76	0.06%	407	0.04%	5.36
スウェーデン	4	0.03%	73	0.06%	1,841	0.18%	25.22
イタリア	3	0.03%	49	0.04%	221	0.02%	4.51
ハンガリー	1	0.01%	29	0.02%	208	0.02%	7.17
ブラジル	2	0.02%	24	0.02%	310	0.03%	12.92
台湾	2	0.02%	14	0.01%	312	0.03%	22.29
合計	11,822		124,308		1,007,533		*8.11

*は平均単価

データ：財務省「貿易統計」

農林水産省の『動物検疫年報』により、犬の輸入検疫数量合計（頭数ベース）の推移をみると、1999年は12,883頭（対前年比 - 8.2%）となった。なお、直近では1996年の20,783頭をピークに、3年連続で減少している（図表8）。

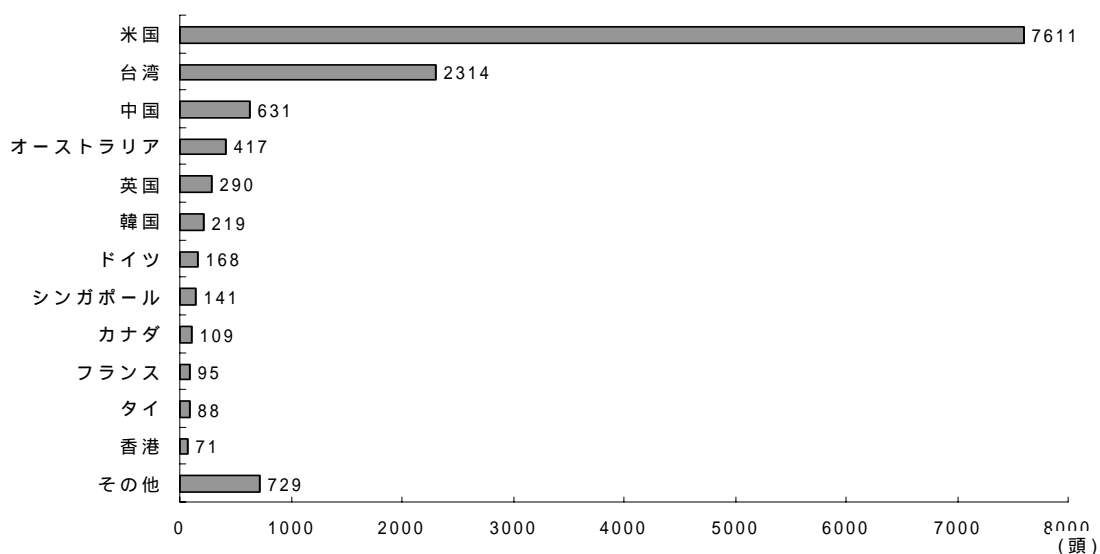
図表8．犬の輸入検疫数量合計の推移（頭数ベース、1990年～1999年）



< 出所：農林水産省『動物検疫年報』 >

また、1999年の犬の輸入国別検疫数量（頭数ベース）をみると、最も多いのは、米国の7,611頭であり、全体の59.1%と2位以下を大きく引き離している。これに次いで多いのが、台湾（2,314頭、18.0%）であり、以下、中国（631頭、4.9%）、オーストラリア（417頭、3.2%）、英国（290頭、2.3%）と続いている（図表9）。

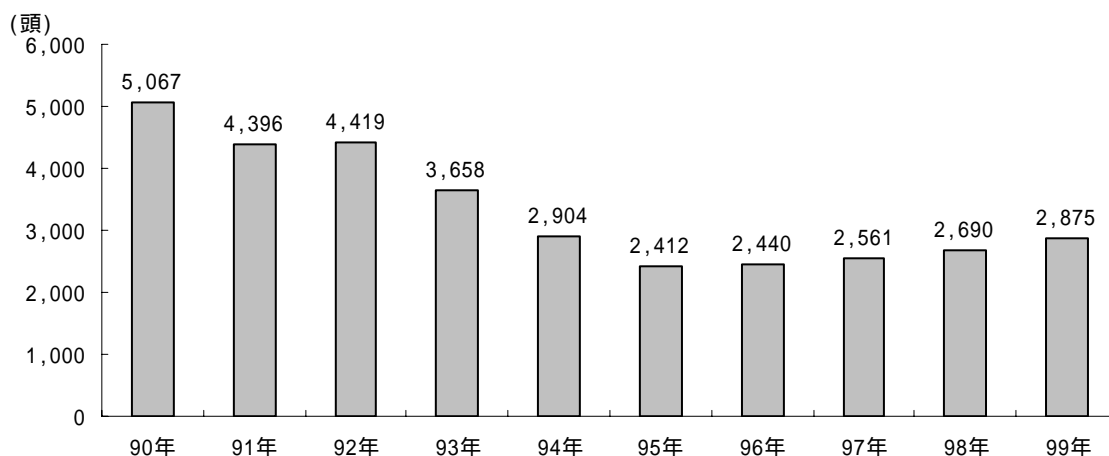
図表9．犬の輸入国別検疫数量（頭数ベース、1999年）



< 出所：農林水産省『動物検疫年報』 >

農林水産省の『動物検疫年報』により、犬の輸出検疫数量合計（頭数ベース）の推移をみると、1995年の2,412頭を底に4年連続で増加しており、1999年は2,875頭（対前年比+6.9%）となった（図表10）。

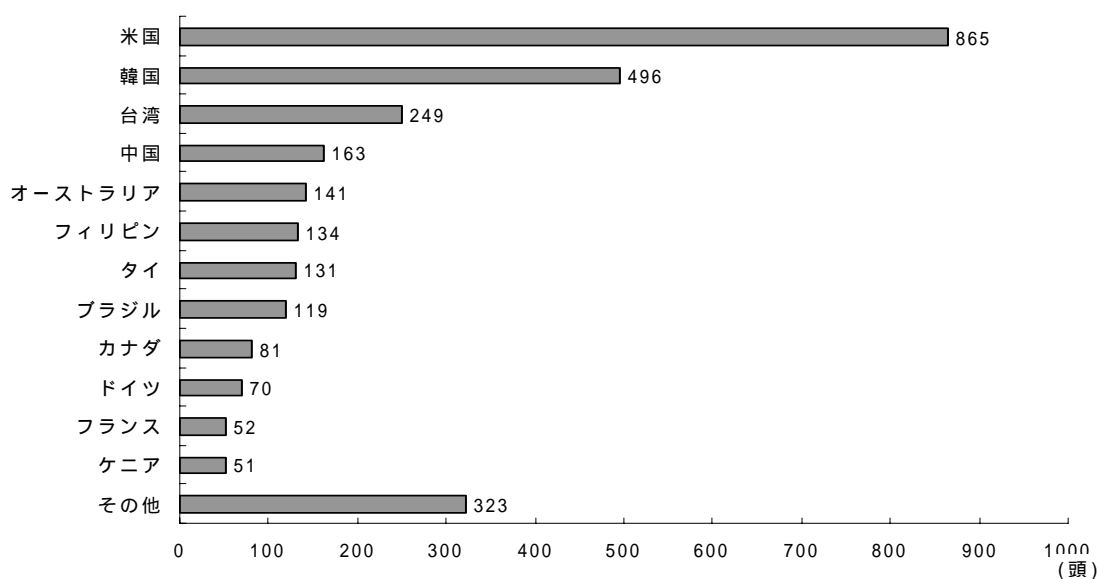
図表10．犬の輸出検疫数量合計の推移（頭数ベース、1990年～1999年）



< 出所：農林水産省『動物検疫年報』 >

また、1999年の犬の輸出国別検疫数量（頭数ベース）をみると、最も多いのは、米国の865頭であり、全体の30.1%となった。これに次いで多いのが、韓国（496頭、17.3%）であり、以下、台湾（249頭、8.7%）、中国（163頭、5.7%）、オーストラリア（141頭、4.9%）と続いている（図表11）。

図表11．犬の輸出国別検疫数量（頭数ベース、1999年）



< 出所：農林水産省『動物検疫年報』 >

3. 哺乳類（犬・猫を除く）、鳥類、爬虫類の流通状況

平成 14 年度調査で対象としたペットは、犬・猫を除く哺乳類、鳥類、爬虫類である。これらの国内流通実態の正確なところは明らかとなっていない。基本的には生体が海外から輸入され、国内市場に流通しているものがほとんどで、国内での生産は全体の流通量の1割にも満たないといわれている。

生体の輸入量は財務省貿易統計が基礎資料となる。この貿易統計では、平成 13 年までは哺乳類以外の動物は一括して計上されていたため、細かい分類別の輸入量は分からなかった（図表 12）。平成 14 年からは爬虫類、鳥類、両生類などの項目が追加され、動物輸入量はやや把握しやすくなっている（図表 13）。

もっとも、これら輸入された動物がすべてペットとなるわけではなく、家畜、実験動物、展示動物等向けとして輸入されているものもある。反対に、食品として輸入された生体がペット市場に流れているものもあるという。

財務省貿易統計以外では農林水産省の動物検疫所の統計数字があるが、これについてもペット動物の数量を把握する上では同様の問題がある。

このように、動物の生体輸入量は分かっても、ペット動物の市場流通量は明確に把握出来ないのが現状である。

図表 12 . 平成 13 年 動物種別生体輸入状況 (財務省貿易統計)

馬	霊長類	フェレット	犬・フェレット以外の食肉目	
4,934 頭	6,941 頭	31,583 頭	482 頭	
うさぎ目		翼手目	ハムスター	
729 頭		2 頭	1,005,488 頭	
モルモット	プレーリードッグ	チンチラ	りす	
1,275 頭	13,407 頭	3,314 頭	67,066 頭	
その他のげっ歯類	その他の哺乳類	哺乳類以外の動物 鳥類、爬虫類、両生類		
51,706 頭	1,513 頭	781,521,400 頭		

図表 13 . 平成 14 年 動物種別生体輸入状況 (財務省貿易統計)

馬	霊長類	フェレット	犬・フェレット以外の食肉目	
4,646 頭	5,171 頭	27,418 頭	725 頭	
うさぎ目		翼手目	ハムスター	
2,516 頭		153 頭	678,793 頭	
モルモット	プレーリードッグ	チンチラ	りす	
1,263 頭	11,473 頭	3,116 頭	57,540 頭	
その他のげっ歯類	その他の哺乳類	爬虫類 かめ目		
51,373 頭	9,713 頭	740,831 頭		
爬虫類 その他のもの	鳥類 猛禽類	鳥類 おうむ目	鳥類 はと目	
138,326 頭	3,873 羽	27,169 羽	3,638 羽	
鳥類 その他のもの	両生類	その他のもの		
133,633 羽	11,587 頭	487,723,860 頭		

